

下関市総合計画審議会
第1回「活力・創生部会」 議事概要

日 時	平成 31 年 4 月 22 日（月） 13：25～14：55
場 所	下関商工会館 3階 第2研修室
出席者	下関市総合計画審議会委員 11 名（欠席者 1 名） 下関市総合計画策定委員会 事務局（下関市総合政策部企画課）

【次第】

- 1 部会長・副部会長の選任
- 2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）について

1 部会長・副部会長の選任

部 会 長：下関市農業委員会 吉本会長
副部会長：下関市連合自治会 中司副会長

2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）について

部会長

事務局から、素案の序論について説明をお願いしたい。

事務局

（序論の説明）

部会長

序論の説明をいただいた。何かご意見があればお願いしたい。
特に無いようである。引き続き事務局から第2章の説明をお願いしたい。

事務局

（第2章の説明）

部会長

第2章について、意見や質問があったらお願いしたい。

委員

3 ページ冒頭に「IoT などの新技術の導入」とあるが、具体的にはどういうことか。

下関市農林水産振興部

具体的にやっているのは、トマトの栽培技術の伝承。ハウス内の湿度や温度管理をデータとして記録し、産地拡大するにあたってその情報を活用する仕組みづくりを行っている。

委員

4 ページの「6 次産業化への取り組み」について、具体的なものがあれば教えて欲しい。

下関市農林水産振興部

今は大きな事業はないが、具体的な動きがあるのは吉田地区。餅やお菓子などを作る取り組みを 30 年度の県の事業として整備をしている。

委員

農業について、グローバル化ということで、外国への輸出を考えるとのことだが、日本の農業は農薬の使用量が世界でも第 4 位であり、それがネックとなって外国へ輸出できていないと聞いている。山口県は割と災害が少なく、原発も遠い。そういう面ではプラスに働くと思う。売り出すのであれば、農薬を使わない農業を全市で考える必要があると思うが、それについては全く触れられていない。実際に、豊浦町の川棚では無農薬栽培の方もロハスを立ち上げている。

林業については、一昨年だったと思うが、菊川町で自伐式林業の講演会があり、今までの大規模な林業のような道をつけて木を切り出すやり方は、山を荒廃させるので、細い林道を造って必要なものだけ少しずつ伐採していくとのことであった。このあたりだと木の種類が良いものはないが、椎茸栽培などもあり、林業と農業あるいは林業と漁業を組み合わせることで、若い人たちが生活を養っていけるものができるのではないかと、大変おもしろい話を聞かせていただいた。今回取り上げられているのかと思ったが、これを見る限りは今まででのやり方の林業で、豊浦町や内日などで見ると、山林の伐採が酷い。バイオマスの原料にするのかもしれないが、伐採により災害を引き起こすのではないかと危惧している。きちんとした計画のもとで伐採が行われているのか疑問である。

作られた方は解っていることだと思うが、市民の皆さんがご覧になる計画だと思うので用語の説明が足りない。例えば「水田の高機能化」といわれても意味が分からず、調べたところ、浅いところに暗渠あんきょを通すということらしい。そのまま書かれても意味が分からないと思うのできちんと説明して欲しいと思う。

水産業についていうと、地域の方に話を聞いたところ、ふくの消費量はどんどん減ってきており、6 次産業化を考えているとのことだった。全体を見てみても、下関には「ふく」しか無いのかといわれるほどふくのことしか書かれていない。もう少しいろんな魚種についても触れるべきではないか。実際、ふくを捕っているのはごく一部で、角島方面で

は鯖も捕っているのです、きちんと考えるべきだと思う。

(農業の) 大企業化に関してはいろいろと支援もあるようだが、個々の農家、特に田舎の方では農家の方が環境整備も兼ねているので、大企業化にしまわれないように気を付けていただきたい。

バイオマスの話で、バイオチップを使うことを推進するのであれば、公共施設でバイオチップを使った暖房などをどんどんやっていったら欲しい。

鯨食については、鯨自体が海洋汚染の一番頂点になるが、それを学校給食に取り入れることは本当に良いのだろうか。この先、鯨の消費は減っているが、それは高価だからだろうか。肉が無かった時代と今の時代で、子供達が美味しい、あるいは社会の人たちが鯨肉が美味しいと受け止めるかどうか解らないが、そのあたりをもう少し考えた上で取り組まれた方が良いと思う。

都市型サービス産業と言われたが、何のことを指しているのか解らないので、解るように記載して欲しい。

商業について、既存の商店街の活性化と書かれているが、既に車社会であり、今更商店街を元に戻すことは不可能ではないか。車が無料で停められるスーパーマーケットなどに行き、シーモールにも人が行かなくなっているのではないか。今日も来る途中で、ビルは山ほどあるが、使われていないようなビルがたくさんあった。新たなオフィスビルを建てる必要が本当にあるのか疑問に思う。

地域経済牽引事業の支援とあるが、全市内で同じサービスが受けられるならまだしも、例えば唐戸の方だけ支援が厚いように思える。豊浦町に引っ越してこられた方に「このような制度があるのを使われたか」と聞いたが、全く説明も受けなかったし知らなかったの一切使っていないと言われた。たくさんの方が市内に転入してこられたときに、市の職員が「転入されて何をされますか？ こういう制度がありますけど」などと提供して下さることが大事だと思う。

商工会館は豊浦町にもあるが、行っても何をやっているのか解らない。

企業のことだが、たくさん大きな企業がある。長府にもたくさんの工場があるが、聞くところによると、若い人ではなく外国人をたくさん雇っており、外国人が産業を支えている状況ではないかと思う。実際に若い人たちはその給料で結婚してやっていけるのかということを把握された上で、産業を誘致して欲しい。産業は誘致しても来るのは外国人ばかりなのではないか。

委員

農林水産業の基本計画の中で、他の所でもたくさん入っているが、食育との連携に触れて欲しい。農林水産業のベースになるようなところもあるので、ご検討していただきたい。

それから商工業振興の中で、経営者の高齢化や後継者不足について触れられているが、具体策が書かれていない。民間のことなので商工会議所が考えることだと思うが、何らか

の形で取り上げられてはどうか。対策も何も書かれていない。

部会長

続いて第4章について事務局から説明をお願いしたい

事務局

(第4章の説明)

吉本部会長

ありがとうございました。それでは第4章についてご意見ををお願いしたい。

委員

ESD は Education for Sustainable Development だと思うし、SDGs は Sustainable Development Goals のことだと思うが、ちゃんと記載していただきたい。

それから「本市では、豊かな自然が多く」と書かれているが、作られた方は実際に農村などを見ているのか。農村部、特に北浦の方に入っていけば、太陽光発電で覆われており、どこを美しい自然と見なしているのかが解らない。

太陽光発電で言えば、住宅のすぐ近くに出来て風で飛ばされたりなど、これからどんどん被害が出てくると思うが、市には建設してはならないなどの規制が無かったと思う。問題が発生した場合にどこに言えばいいのかが解らないのが問題。

美しく魅力的な景観というのがどこのことを指しているのかが解らない。市はこのあたり（唐戸）と角島のことばかり取り上げるが、もっと他にも大事なところはあるので、しっかり見て欲しい。

計画の中に「国道9号線沿線花壇を」と書いてあるが、自治会や豊田町などでも一生懸命道沿いの花壇を作っている。何故国道9号線だけを取り上げているのか訳が分からない。

景観形成地域とか、誰の理念を聞いているのか疑問。

「まちなか」という言葉がよく出てくるが、市が広いのにごく一部だけを指して計画を立てているのではないか。

ごみ処理では、リサイクルのための分別と言われているが、実際に処理をしているセンターの方に聞いたところ、ちゃんと分別できていないので燃やす方に回すと言われる。そこまでして分別する必要があるのか。分別の必要があればもう少ししっかり対応をしなければならない。旧市内では綺麗なかもしれないが、それ以外はごみをたくさん引き受けて、このあたり（市街地）で工事をしたものが豊浦町とか豊北町などに来ている。全市の計画というのであれば、どこか一つの地域だけがプラスになって他がマイナスになるような取り組みは止めていただきたい。

空き家に関して言うと、市役所本庁舎に行かなければ情報が得られないとのことだった。

例えば、空き家を保有している人が、実家が空き家になりかけているからと、年に数回しか戻ってこないときに、総合支所に行くと「市役所本庁舎に行ってくれ」と言われる。休みを利用して来られるので、そういう人たちは市役所本庁舎にたどり着けないまま、空き家が放置されているのではないかと思われる。空き家のことを本当に考えているのであれば、総合支所で対応できるような仕組みを取っていただければと思う。

部会長

委員が言われたとおりの部分もあるので、今後の計画の充実については、真剣に皆さんと適正な計画となるようにしていきたい。

委員

総合計画に載せるかどうか解らないが、第4節の住環境の整備について。俗に言う市営団地に関してだが、いろんな指針を出されて実施するのは解るが、耐震化であったり設備のメンテナンスであったり、技術的な面のフォローをしようとしている。他の市はそこまですべてやっていないと思うが、民間のURなどの団地でやっているように、団地を再生することによりもう少し夢が描けるのではないか。技術的なことだけではなく、そこでの活動の指針が総合計画に載っていて、あとは実際に考えるということでもいいと思う。元々の始まりは対象者が低額所得者で生活を支援するためということもあり戸数も多いと思うが、これだけ溢れているのであれば、民間が付加価値をつけると市はもっと儲かるのではないか。デザインであったり建築の良さであったりということが一言描けないかと思う。

部会長

ご意見が無ければ第5章について事務局から説明をお願いしたい

事務局

(第5章の説明)

吉本部会長

ありがとうございました。それでは第5章についてご意見をお願いしたい。

委員

市街地整備の関係で、持続的な都市空間づくりという中では、空き地や空き家もある意味セットではないか。将来空き地や空き家になるであろう場所も含めて調査をする必要があるのではないか。

道路整備について、基本方向で「災害時にも機能する信頼性の高い国道・県道等の整備

を推進」とあるが、「等」に含まれている道路が、私の理解では例えば臨港道路や農道、林道など含めていると思う。各事業主体によって整備の方針がいろいろ出てくると思うが、道路は繋がっており、ネットワークを考えて、各事業の調整や市全体を含めたイメージを作り上げることを期待したい。

公園・緑地等の整備についても同様で、「街区公園等の施設整備を図る」とあるが、「等」にも港湾関係の緑地、海岸環境整備関係の緑地などがあり、全体的な緑地という考え方で、各事業毎だけではなく、トータル的な必要性なども明記すべきだと思う。

情報・通信の整備については、「その一方で、情報の活用に関しては世代間・地域間等の格差により、市民が公平に利活用できないなどの問題も残されている」と書かれている。具体策としてはなかなか書けないと思うが、このあたりも少し検討されては如何かと思う。

港湾の振興についてだが、港湾計画そのものが国土交通省によってオーソライズされたものと聞いている。今回、ドラスティックに変わっているのは、港湾計画との整合性をとったからである。港湾計画は総合計画の上位計画にあたるものだと思っているので、それも止むなしだと思う。内容的には、港湾計画そのものが基本計画でもあり、実施計画にもなっていると理解しているので、その理解で宜しければそういう理解をさせていただきたい。

現状と課題で「競争力を維持・強化していく」、「連携をしていく」とある。競争力というのは連携とある意味で相反するものであるため、どちらかについて「基本的に」という言葉を入れるなど、相反するものをうまく整理して欲しい。

「老朽化による機能低下が進んでいる」とあるが、下関の港湾の主要な施設は国が直轄事業で行っている国有港湾施設である。国有港湾施設については、市の港湾当局での対応が難しいので、老朽化対策について国に働きかける必要があると思う。

基本方向の中で、「水際線を活用し、周囲の歴史・文化・観光資源と一体となって更なるにぎわい空間を」とある。あるかば一との新たなホテル建設等もあるが、例えば「民間活力を加味して」など民間の力を使っていく意思表示をされたらどうかと思う。

各事業の方向で、使いやすいみなとづくりの中で、「物流エリアと人流エリアの分離を行う」とあるが、実際には長州出島のコンテナターミナルをクルーズ船で利用しているという実態がある。明確に分離するのが良いのか、あるいはコストパフォーマンスを考えて、双方対応しバースをうまく使った方が良いのかというのがあるので、「基本的に」などの言葉を入れて、完璧な分離は出来ないがそのあたりをご検討いただければと思う。

委員

第5章は市街地の整備と書いてあったので、豊浦町などの整備は何が書いてあるのだろうと思ったら、項目すら無かった。市民全体に対して作る計画が市街地だけしか書かれていないのはおかしい。

旧市内を見て回ると大変老朽化した建築物が多く、そこから子供は出て周辺の市街地を拡げていると思う。この計画の中には、実際にそういう人たちがどこに移り住んでいるのかが触れられていない気がする。今、人口が増えているのは、安岡や王司の方ではないかと思うが、本来であれば「今、このように増えているのでこのような対策を取る」とすべきだが、子供達が出て行ってしまい、帰ってくることが想像できない地域にお金をかけることが良いことなのかという気がする。

公共交通については、菊川と豊北と豊田については生活バスがあるが、豊浦町はサンデンバスが川棚まで来ているがそこから先は何もない。バスカードなども買いたいと思っても、旧市内まで出てこないと買えない状態なので、使いたくても使いにくい状態にある。

道路を作ることだが、プラスばかりのように言われているが、例えば北バイパスが出来たために、山の田、川中、安岡周辺はずいぶん衰退してしまったという印象を持っている。私たち豊浦町から来る者は大変プラスになっているが、道路を作ることが本当にプラスなのか。道路はモノを運んでくるだけではなく、人を外に連れて行ってしまい帰ってこない可能性があるので考えるべきだと思う。

下関北九州道路について言えば、市民アンケートを元に作ったと言うのであれば、市民アンケートで、前は道路が欲しいという回答が 18.2%であったが今回は 15.8%、要望順位の中では9項目中の6位と、決して市民の要望が高いとは言えないと思う。

都市における公園ということだが、田舎には公園は要らないのだろうか。

乃木浜や長府にいろんな設備を作られるとのことだが、本来、埋め立て地だと思うので、高潮とかいろんな災害が起こりうる危険性がある。また、長府は利便性が大変悪い所で、駅からそこまで行くのもずいぶん難しい。そこにスポーツ施設をたくさん作るというのは、市内の動線を考えた場合に良い選択なのかなと思う。

総合支所でできるだけ用事が足せるようにして欲しい。例えばテレビ回線などを使うことで、ここまで来なくてもいくらかでも対応できる方法があると思う。総合支所に行ったら担当者が画面上で対応してくれればと思う。必要な書類もいくらかでも送ることが出来ると思う。

港湾については、下関については重要なことは解るが、今までずいぶんたくさんのお金をつぎ込んできたと思う。この先、どのくらいのお金をつぎ込んで、何年経ったらペイできるのか。具体的な資料をいただかないで、議会でも「港湾を作ればいい」とか「将来的には下関市にプラスになる」という答弁を聞いたことがあるが、本当にプラスになるのか、今まで使ってきたお金は無駄ではないのかというのは、市民に説明できる資料を持って計画案を作らなければならないと思う。

第6節の港湾の振興のところで、第2次の前期の基本計画と比べて、すごく詳細に増えているが、別に市民が要望したわけではないものをこれだけ具体的に示さなければならないのか。

岬之町が 365 日昼夜ともに市民をはじめ来訪者が集うような開発を進めるとあるが、本

気でこれを書いているのかと思った。昼夜を問わずということは、夜間に電気を使うので省エネにも大変悪いと思う。

委員

細かい話だが、第5節のタイトルで「情報・通信の整備」とあるが、整備されるのは情報とか通信ではないと思うので、例えば「情報・通信基盤」だとか「情報・通信環境」などを入れないと、通信を行政が整備するとなれば大変なことになるので、少し気をつけていただければと思う。

委員

市街地への整備ということで、下関の玄関口である下関駅周辺の活性化が無いのはどうかと思う。駅前バスが独占しているような状態ではあるが、駅西の開発、また大丸やシーモールもあるので、駅前広場の流れを使って、駅前の開発を触れられないかなと思う。

委員

委員の話聞きながらなるほどと思ったが、確かに北バイパスで便利になっている。でも一方で衰退しているかもしれない。王司の話もそうだが、旧市内よりも地価が安くこれから開発され宅地化されている。そこから車で20分位で旧市内に行くことが出来、いろんなプログラムを体験できる。だから住む場所として良かったという話なのかなと。ただ、それを起点に考えていこうかという話になり、そこを充実させると安直に考えることが良いのか。都市計画と一緒にインフラ整備を考えると、現状を正解とするのはちょっと違うのかなと思う。

港湾の国際フェリーターミナルの整備というのがあり、確かに完全にパンクしている瞬間はあると思っている。更に老朽化していることを考えると、機能整備と書かれていたところは具体的に建て替えを考えているのであれば、一歩進んで明言するようにしても良いのかと思う。

部会長

ありがとうございました。それでは総体的に第5章以外に2章や4章でも構わないのでご意見をお願いしたい。

委員

2章から5章まで拝見させていただいたが、第2章は他の章と比べて「支援します」という言葉が多い。あれだけ「支援します」という言葉が使われると、「じゃ、何をどれだけどこに」となり、逆に突っ込まれるのではないかと。1年ごとに立てられる実施計画で具体的な案件を出してそこに補助するとか、融資するとか、支援するなどであれば解るが、基

本計画で「支援」という言葉はどうかと思う。

部会長

今の件ももっともだと思う。基本計画は総体的に、あまり個々の地域がどうだということではなく、総論としてまとめ上げることが可能であればそうすべきだと思う。都心部と農村部の合併前の諸条件が異なるので格差があると私も思っている。その格差の是正を行うことで、住んでいる方達が希望を持てる基本計画になるのではないかなと思う。

景観形成、豊かな自然ということで、太陽光発電所の話が出た。太陽光発電所が作られなければセイタカアワダチソウの御殿のような景観になってしまう。一方からすればエネルギーの新たな源と考えれば太陽光もやむを得ない。私は農業委員会なので、土地を荒廃から守るとか農地を有効活用することが大前提ではあるが、どうしても人口減少、高齢化、格差など全部来ているので、これらを元に戻すのは難しい。イコール外国人労働者の雇用で日本の経済を支えようとなってくる。どうしてもやむを得ず後退する地域について、エネルギー確保のための事情を議会でも検討はしている。ですから担い手不足、高齢化でこれから農作業が出来ないため、やむを得ず太陽光発電をされる所有者の意向も踏まえていく。バラバラで太陽光発電所が出来ているので、ある程度市として地域指定をするのも考えられるのではないかな。一方的に私の思いだけで申し上げたが、そういったことが総体的に記述出来れば良い計画になるのではないかな。皆さんがそれぞれ個々の部門担当の方もいらっしゃるなので、バラ色のようなことは出来ないかなと思うが、言われた意見をまとめながら是非とも良い計画が出来るように出来ればと思う。

策定委員の方が来られているので、こういうことをやっているなどあればお願いしたい。

下関市総合政策部

いろいろご意見をいただいたので、計画に反映できるものは反映したいと思う。先ほどからの委員からご指摘の解りにくい表現について、文章の中では解りやすいように取り組む。また基本的な言葉としてある程度、詳細をつけるということもあるので、用語解説等で対応したいと思う。それから先ほどからいただいた様々なご意見、総合計画の中で反映できるもの、あるいは今後の議論を進める中で認識するものなどいろいろあるので、そのあたりを踏まえて計画したいと思う。

部会長

初回なので、まだまだ物足りない点や素案に現状に物足りない点などあれば、皆様方に意見を出していただいて、充実したものにしたいと考えている。

事務局

今回の専門部会では、頂戴した意見を踏まえて素案を修正して、改めてご意見をいただ

く形になると思う。よろしくお願いいたします。

部会長

今日来ていらっしゃる方は各会各部門の代表者の方々であるので、それぞれの会合があると思うので、その際にご意見をいただき、こういったことを盛り込んで欲しいということであれば、意見として発表していただき取り上げられたらと思っている。よろしくお願いいたします。

委員

全体的に見させていただいて、現状と課題が並列的に書かれすぎている。本当にこれだけが課題なのか、この課題が解決すればバラ色の将来が描けるのかというがあるので、本来であれば課題の部分は、下関市として重点的に取り組むべきというところをしっかりと書き込んでいくべきだと思うし、それに対する基本的な方向や施策、流れを作っていないとメリハリが無いと感じた。

各事業の方向で、今回新たに後期計画で取り組む施策があると思うので、それについては「新たに取り組み」などと書き込んでいただくと、見る側としては後期計画で新しく取り組む部分が解りやすくなると思う。

部会長

前期計画と比べて新たな取り組みが書いてあるように思える。全体的に合併時の思いがあり、地域と農山村の衰退が著しい。そういった疲弊したところの皆さんにある程度夢のあるような計画を出来ればと思っている。

それでは本日はこれで終了したい。進行を事務局に返す。

事務局

いただいたご意見については、素案に修正を加えとか、もう少し周囲の考え方をお伝えした方が良いものもあったと思う。施策や事業の具体的な実行面・運用面で工夫を求められたご意見もあったので、もう少し整理して次回お示しして意見を頂ければと思う。

専門部会は月1回開催を予定しており、5月中に1度、6月中に1度開催する。7月中にも開催するかもしれない。

以上